〈研修会報告〉

令和四年度福岡県書写書道教育研究大会

直方高校　鎌田　聖菜

令和四年度福岡県書写書道教育研究大会が八月一七日（水）に福岡教育大学アカデミックホールで開催されました。本年度の研究主題は「これからの書写・書道教育を考える　～小・中・高等学校及び大学の教育実践を通して～」でした。

はじめに、元筑紫地区小学校主幹教諭の松尾朋幸先生より、「福岡県の書写教育の歩み　～児童硬筆書写展の取り組みを中心に～」と題した講話がありました。書写の授業で「生きる力」は育っているのかという投げかけのもと、「教え込みの授業」から「子どもが自ら課題を見つけ解決していく授業」へという新学習指導要領に即した授業改善の事例提案がなされ、学期末に授業数が足りなくなると書写の授業は削られてしまう、と松尾先生は危機感を感じておられました。国語科書写の位置づけを守り、子どもの「生きる力」を育むためには、教員一人ひとりの授業改善と指導の充実が欠かせないと感じました。

次に、糸島市立加布里小学校の坂元友美先生より「誰もが活用できる書写授業の教材アイテム」について発表がありました。小学校第二学年の「漢字クイズを作ろう」（光村図書）という単元の際に作成された漢字の点画を分解した模型やＩＣＴを活用した漢字クイズの紹介と水書用筆を活用した指導の成果発表が行われました。坂元先生は、生徒の作品添削の際に、花丸をできるだけ多くつけ、花丸ではない文字について、なぜ花丸ではないのかを子どもに気づかせるということを行っておられ、見る力や考える力を育むことのできる指導に感銘を受けました。私もこれらのことを授業に生かしていきたいと感じています。

最後に、「小・中学校国語科書写・高等学校芸術科書道教科書　デジタルコンテンツの利活用について」という題のもと福岡県内使用の教科書出版会社（教育出版・三省堂・東京書籍・光村図書・教育図書）よりワークショップが行われました。授業の際に教科書についているＱＲコードを読み込んだり、アドレスを入力したりすることでデジタルコンテンツを活用できることを紹介されていました。今回、実際にデジタルコンテンツに触れることで、実際の授業での活用方法をイメージすることができました。ＩＣＴを活用し、様々な角度から学びの対象を捉えることで、生徒の学びがより深いものになるよう効果的に活用していきたいと考えています。